

筑波大学 消化器内科



筑波大学大学院 人間総合科学研究科
臨床医学系 消化器内科 教授
兵頭 一之介
専門：消化器内科、臨床腫瘍

筑波大学消化器内科へようこそ！

消化器内科は食道・胃・小腸・大腸の消化管並びに肝・胆・膵と非常に広範な領域をカバーしています。扱う疾患も多岐にわたり、癌をはじめとする悪性腫瘍、消化性潰瘍、炎症性腸疾患、肝炎、膵炎、胆石など多くのものがあります。これらに対し、薬や内視鏡を使って最先端の治療をおこなっています。また同時に新薬の開発治験や臨床試験を通じて新たな有効な治療法の開発も行っています。初期研修では消化器疾患の診断と治療に関する必須の知識と技術の習得が、後期研修では各領域における高度な専門的修練を積むことができるでしょう。是非、我々の仲間になって一緒に仕事をしてみませんか。

消化器内科のここがすごい①-世界トップレベルの癌診療-

年間悪性新生物部位別死亡率の上位は消化器癌で多数が占められており、癌は消化器内科の中でも最も重要な分野です。当科では早期がん～末期がんまで全てに対して積極的に治療を行っています。化学療法は最新の科学的根拠に基づいて、一番有用である治療法を行っています。その一方で、つくばがん臨床試験グループ（TCTG）の設立、西日本がん研究機構（WJOG）や東京がん化学療法研究会（TCOG）への参加など化学療法の普及や最新治療の開発などに積極的に取り組んでいます。内視鏡治療は主に早期の癌に対して、より大きなサイズの病変を切除するESD（内視鏡的粘膜剥離術）を取り入れており、件数は県内でもトップレベルです。

消化器内科のここがすごい②-充実した指導体制-

消化器内科は対象疾患が多いため、膨大な知識と高い手技レベルが要求されます。これらに対応すべく、研修医の期間は大学病院を中心に県内の基幹病院でレジデント研修をおこなってまいります。チーフレジデント終了時にはどこへいっても消化器内科として通用する医師になることができます。専門医としては「日本内科学会認定医・専門医」「日本消化器内科学会認定専門医」「日本消化器内視鏡学会認定専門医」「日本肝臓学会専門医」「がん治療認定医」「がん薬物療法専門医」などを取得可能です。指導内容も定評があり、消化器内科は最も多くのレジデント教育賞受賞者を輩出しています。

消化器内科のここがすごい③-多くの関連病院-

医師不足は茨城でも深刻で、消化器内科も例外ではありません。消化器内科の無い病院は無いといっても過言ではなく、北は日製日立総合病院から南は都立墨東病院まで数多くの関連病院があります。しかし、消化器内科医の数はどこも足りていないのが現状です。科の特性上、プライマリケアの要素が高く、開業に有利であることも不足の原因となっています。みなさんが医者になってもこの傾向は続くと思われるので、就職先に困ることは絶対にありません。

消化器内科のここがすごい④-最先端の研究-

消化器内科でレジデントを終了すると、大半の方が大学院に進学します。当科では主に癌を中心に診断、治療に結びつく研究を行っています。治療に関しては新規抗癌剤や、遺伝子治療の開発を行い、その成果は学会でも高い評価を得ています。また、薬剤代謝酵素の違いによるオーダーメイド医療の実現を目指し、さまざまな分子マーカーを探索しています。癌診療でも触れましたが、当科が中心となり多数の化学療法臨床試験も全国的に展開しています。標準治療の確立に携わることは、非常にエキサイティングな経験です。

では実際に我々の仲間となった先輩の後期研修以後の生活をみてみましょう。

消化器内科ローテーション例 Y先生の場合

S2	C1	C2	レジデント終了後
筑波大学附属病院	茨城県立中央病院	筑波大学附属病院	大学院進学

消化器内科ローテーション例 H先生の場合

S2	C1	C2	レジデント終了後
日製日立総合病院	筑波大学附属病院	水戸医療センター	水戸医療センター

*この他、希望者には国立がんセンターでの臨床・研究や海外ではMD Anderson Cancer Centerへの留学も可能です。

ここまでお読みいただいて、消化器内科の魅力が十分伝わったことと思います。興味があった方は是非、我々のホームページを訪れていただき、下記までご連絡下さい。見学はいつでも大歓迎です。

消化器内科ホームページ：

<http://tsukuba-igaku-gastro.com/>

筑波大学消化器内科

検索

メールアドレス：

兵頭一之介 ihyodo@md.tsukuba.ac.jp